

令和 4 年度 結果の分析及び今後の改善策(案)

(中間 ・ 最終)

両城中学校区 校番 19 学校名 両城小学校

重点	d 中期(3年間) 経営目標	e 短期(1年間) 経営目標	l 結果の分析 (結果と課題をこう考えます)	m 今後の改善策(案) (こう改善します(案))
*** 確かな学力の向上	(貫) 主体的な学びの推進による学力の定着と向上	基礎・基本の徹底	「知識・技能」の平均点が目標値よりも上回った。国語は低学年94.2点、中中学年85.8点、算数は低学年95.5点、中中学年90.7点となっており、算数の方が高かった。それは、各学級でタブレット、ドリルや小テストの実施を定着化し、満点になるまで繰り返し行うことで基礎・基本を徹底したこと、家庭学習の提出を毎日点検し、未提出の児童は学校でやらせたり、どこで間違えているか個を把握して理解するまで個への指導を行ったりしたことによると考えられる。	今後も家庭学習の徹底と、どこで間違えているか個を把握し、個に応じた指導を続ける。特に国語では、言葉・漢字の意味や使い方が苦手な児童が多いなど、個人の課題や学級の傾向を把握して、それに応じた指導をする。
		思考力・判断力・表現力の向上	「思考力・判断力・表現力」の平均点が目標値より上回った。国語は低学年95.2点、中中学年87.8点、算数は低学年90.0点、中中学年81.6点だった。二川授業スタイルを実施し、振り返りの時間の確保と、視点を明確にしたことで、次時への意欲や課題発見につながった。算数の平均点が低いのは、文章題の意味理解ができにくく、指導が十分できなかったことが要因である。	「二川授業スタイル」をさらに充実させるために学び合いの場面で思考を促す発問を吟味する。「ノートづくりの手引き」を活用しノートに思考したことを書かせる指導を続ける。特に算数では、数・式・図・言葉を関連付けた考えを表現させる。考えや振り返りが書いているノートを提示する。
** 豊かな心の育成	(貫) 自他を大切に して共に高まり 合う児童の育成	自他のよさに気づき、相手を思いやる 態度の育成	「縦割り掃除で自分の役割をやりきることができた」についての肯定的な評価の割合は97%であった。これは、役割と仕事の内容を明確にし、継続的に縦割り班活動を行ったことによるものと考えられる。また、「相手のよさを見付けることができた」についての肯定的な評価の割合は91%であった。振り返りに6年生がよかったところを紹介する場を位置付け、教員が事前に適切な声かけをしたことで、他の児童のよさを見付ける意識が高まったのではないかと考えられる。	役割と仕事の内容を明確にした縦割り班活動を今後も継続していく。また、振り返りでよかったところの紹介を、6年生だけではなく、1年生から5年生にも伝える場を設け、全校で他の児童のよさを見付ける意識がより高まるようにしていく。
		自主的・主体的に行 動できる児童の育成	達成率は96%であり、目標値を大きく上回った。これは、毎年の継続した取組が定着した成果と考えられる。また、「生活目標ががんばりカード」で中間の振り返りを取り入れたことで、見通しをもって取り組むことができ、児童の自主的・主体的な態度を引き出すことにもつながったのではないかと考えられる。また、学期末に自分で生活目標を決める機会をつくったことも、要因の一つと考えられる。達成率は十分だが、生活目標の掲示の活用が十分でない状況があるので、活用方法を探っていく必要がある。	放送等で生活目標についての話をしたり、生活目標の掲示を紹介したりして、自分の学級や他の学級の状況を確認する場を設け、児童が生活目標を意識できるようにする。また、個人の振り返りカードを放送で紹介し、生活目標をより意識させていく。
* 健やかな体の育成	健康増進と 体力の向上	(貫) 体力の向上	全体の達成率をみると66.4%であり、目標には届いていない。1年生については体の動かし方などを中心に指導していく。4年生以上の女子の達成率が低いので、体の動かし方だけでなく、体格に合った筋力をつけていく必要がある。	毎朝、体の動かし方に慣れる運動に取り組むとともに、外で体を動かす取組として、ICT機器を使った外遊びの啓発やなわ跳びを使った取組を行っていく。
		生活リズムの確立	目標を達成できており、昨年度から引き続き行っている保健指導が定着しているものと考えられる。しかし、達成できていない学年や、否定的評価をしている児童も一定数おり、全児童の数値を引き上げていく必要がある。	保健委員会の児童による啓発活動を引き続き行う。また、特定の学年に重点的に担任と養護教諭が連携した保健指導を行い、達成できていない学年の数値の引き上げを行う。
		(貫) 防災教育の充実	1学期は全学年で県のみならず減災推進課による防災出前講座を実施した。また、1、4年生については「ひろしまマイタイムライン」にも取り組んだため、目標を達成することができた。「地域に起きやすい災害を知っている」というアンケート値が低いので取り組む必要がある。	定期的に呼びかけを行い、有用な資料を用いて情報の共有なども行っていく。特にアンケート値の低かった内容について重点的に指導することを全教職員で共通理解し、各学級で教科領域や行事等で意図的に取り上げることにより、アンケート値の引き上げに努める。
業務改善	教職員が自らの意欲と能力を 発揮できる教育 環境の整備	児童生徒と向き合う 時間の確保	肯定的評価の割合は89%だった。職員1人1人が児童と向き合う時間を確保するために、見直しをもって業務を進める意識が定着してきたことによるものと考えられる。分掌の内容により、自分の学級の児童と向き合う時間の確保が難しくなることがある。	分掌の進捗状況の把握と必要に応じた支援をしていくことに努める。
		長時間勤務の削減	時間外在校等時間45時間以内は管理職を除いた全ての教職員が達成できている。時間外在校等時間の平均は約28時間であり、昨年度の同時期に比べ、4時間減となっている。また、水曜日は17時、他の平日は18時を目安として、声掛けがなくても退校する教職員が多く、長時間勤務削減への意識が定着していると考えられる。	引き続き、退校30分前の呼びかけを行うことで、自分の業務の進捗状況に応じて退校する状況を今後も継続できるようにする。